科目名称：	工業簿記演習	
担当者名：	野村　和宏	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1

授業の目的・テーマ

工企業の特徴は製品の製造を行うことにあり、工業簿記とは、この製造活動を記録することです。
工企業は、原価計算によって製品の原価を計算し、その結果を工業簿記によって帳簿に記録し、結果を財務諸表によって報告しなければなりません。したがって、工業簿記演習では、原価計算によって原価を計算する方法と、その結果を工業簿記によって帳簿に記録する方法を学修します。

授業の達成目標・到達目標

日本商工会議所の簿記検定試験２級の工業簿記分野の修得を目標とします。最終的に会計実務演習Ⅱ・Ⅲと合わせて日商簿記２級合格を目標とします。

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	100				100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容１》　税理士	《経験年数１》　例：　１３年８ケ月
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回　工業簿記の基礎・工業簿記の勘定連絡	このシラバスを精読しておくこと	30分
第２回　材料費	前回授業(工業簿記の基礎・工業簿記の勘定連絡)の復習	30分
第３回　労務費	前回授業(材料費)の復習	30分
第４回　経費	前回授業(労務費)の復習	30分
第５回　個別原価計算	前回授業(経費)の復習	30分
第６回　部門別個別原価計算	前回授業(個別原価計算)の復習	30分
第７回　総合原価計算	前回授業(部門別個別原価計算)の復習	30分
第８回　総合原価計算（授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	前回授業(総合原価計算)の復習	30分
第９回　総合原価計算	前回授業(総合原価計算)の復習	30分
第10回　総合原価計算（授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	前回授業(総合原価計算)の復習	30分
第11回　財務諸表	前回授業(総合原価計算)の復習	30分
第12回　標準原価計算	前回授業(財務諸表)の復習	30分
第13回　直接原価計算	前回授業(標準原価計算)の復習	30分
第14回　本支店工場会計	前回授業(直接原価計算)の復習	30分
第15回　まとめ（授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	前回授業(本支店工場会計)の復習	30分

　事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
　また、事前事後学修としては、復習内容を小レポートにまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

　　定期試験は、 100%で評価する。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への貢献・積極的関与を前提とし、それが認められない場合は減点する。

課題に対してのフィードバック

授業内プリントは評価し返却する。

教科書・参考書

教科書：　　合格テキスト日商簿記２級工業簿記　　（ＴＡＣ出版）